

しょうがっこうたんじょう

歴史 「小学校誕生のひみつ」

しょうわ

昭和29年

しらはた

白幡小学校の分校として設立

せつりつ

じどうすう

児童数 449名 先生 9名



昭和30年

大口台小学校として独立

どくりつ

児童数 961名 先生 29名



歴史「校歌・校章」

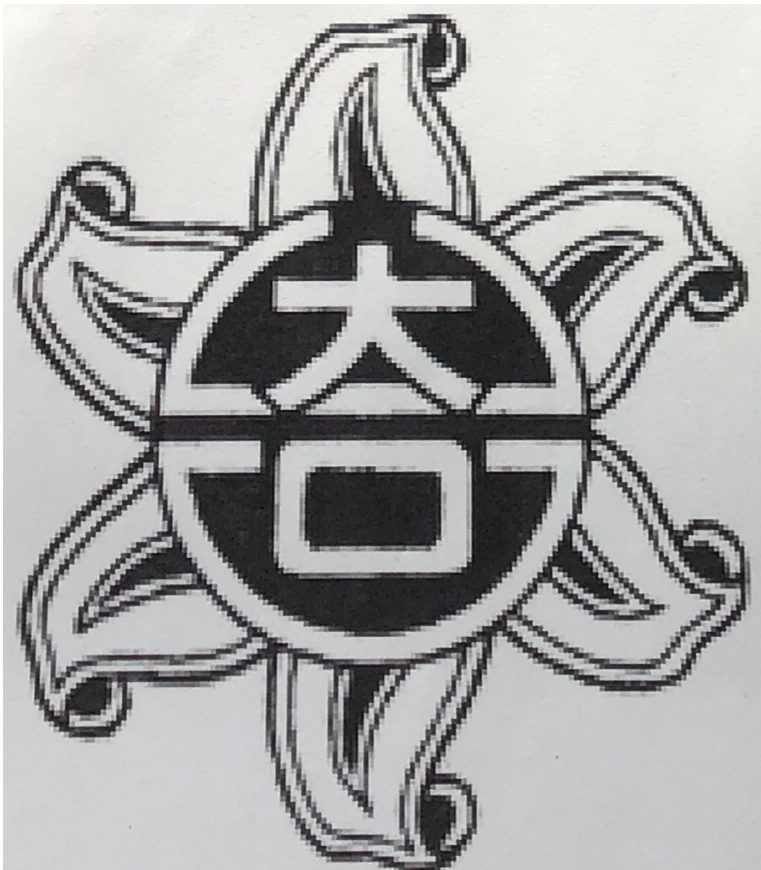
昭和50年（創立20周年）



校歌が完成

当時有名だった

高木東六さんが作詞作曲



学校の周りにあった森林に、
たくさんのヤマユリがさいて
いたという理由から校章に使
われている。

歴史「ぞうのひみつ」

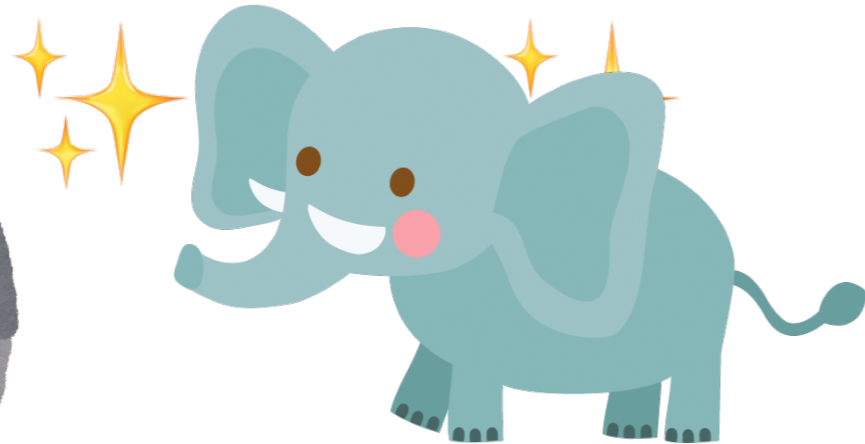
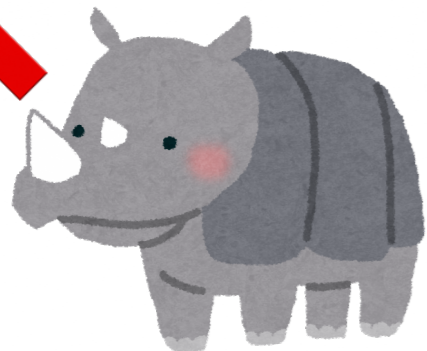
いま ねんまえ たんじょう
今から7年前に誕生!!

とうじ こうちょう 当時の校長先生 たかね（高根校長先生）が

「やる気いっぱいの大口台小学校に」

というおも思いからはじ始まった。

「〇〇しなサイ」 「〇〇するゾウ」



歴史「学校生活」^{せいかつ}

65年前と今では、
子どもの生活に大きな変化^{へんか}はない。



みんながはいている、^{うわ}上ばきについて

1872年 ^{がくせい}学制^{はつぷ}発布によって「はきものをぬいで
^{こうしゃ}校舎に入る」という^{しゅうかん}習慣ができた。戦前は、^{せんぜん}たびや
^{ぞうり}草履・^{げ た}下駄を^{せいふく}上ばきにするが多かった。

大口台小学校は、今まで^{せいふく}制服はなく、上ばきを
^{ある}はいて校舎を歩いている。

